令和６年度　柏小学校自己評価書

重点目標	評価項目	評価指標	目標値	期間	評定	考察（◇）　改善方策（◆）		4	3	2	1	肯定率	個別評価
学びづくり（確かな学力の定着と向上）	1 基礎的・基本的な学力の定着	学校は、個の教育的ニーズに応じた指導・支援を行い、個別最適な学びの充実に努めているか。	児童・保護者・教職員の90%以上が肯定	中間期	A	◇児童・保護者・教職員共に、肯定率が90%を上回り、目標は達成している。基礎的・基本的な学力の定着はできたが、読解力・思考力・表現力や自己学習力に課題がある。 ◆児童が学びたいと思う課題の設定、発問の精選、対話的な学びの充実、予習の習慣化等を図り、思考力や表現力、自己学習力を育成する。 ◆全国学力・学習状況調査、単元末テストの分析をもとに、個別最適な学びを工夫するとともに、効果的な指導法を共有し、実践する。	児童①	57.5	35.0	7.5	0.0	92.5	A
							統一					38人	
							児童⑦	77.5	22.5	0.0	0.0	100.0	A
							保護者①	45.7	51.4	2.9	0.0	97.1	A
							教職員①	37.5	62.5	0.0	0.0	100.0	A
							教職員㉒	14.3	85.7	0.0	0.0	100.0	A
				年度末	A	◇児童・教職員の肯定率は90%を上回り、児童・教職員は、基礎的・基本的な力は身に付いてきたと感じているが、保護者の肯定率は7.5%低下し、目標に達していない。勉強が分からないと口にしたり家庭学習で困ったりしている児童が少数ではあるがおり、このことが保護者評価の低下につながったのではないかと推測される。 ◆授業や業間に基礎的・基本的な内容を定着させる時間を確保するとともに、予習の習慣化や家庭学習の充実に取り組み、基礎的・基本的な学力の定着を図っていく。	児童①	53.7	43.9	2.4	0.0	97.6	A
							統一					40人	
							児童⑦	75.6	22.0	2.4	0.0	97.6	A
							保護者①	37.9	51.7	10.3	0.0	89.6	B
							教職員①	25.0	75.0	0.0	0.0	100.0	A
							教職員㉒	28.6	71.4	0.0	0.0	100.0	A
	2 学習習慣の確立	学校は、児童に家庭学習の習慣が身に付くよう家庭学習を工夫し、自己学習力の育成に努めているか。	児童・保護者・教職員の90%以上が肯定、学年ごとに設定した家庭学習の達成率が80%以上（児童のチェックカード）	中間期	B	◇児童と教職員の肯定率は90%を上回っているが、保護者は約63%と低い。学年相応の家庭学習の習慣化が課題である。 ◇漢字や計算等の基礎的・基本的な学力の定着を図るため、かんぺきタイム等、全校での取組を継続する。 ◆個々の課題点や特性に合った家庭学習を工夫するとともに、自主学習ノートや予習への取り組み方を具体的に指導し、自分の目標を持ち、進んで自主学習に取り組めるよう支援する。	児童⑧	60.0	32.5	7.5	0.0	92.5	A
							統一					38人	
							家庭学習達成率					84.9%	
							保護者③	20.0	42.9	34.3	2.8	62.9	D
							教職員⑤	25.0	75.0	0.0	0.0	100.0	A
				年度末	C	◇児童の肯定率は90%を上回っているが、教職員・保護者は目標値を下回っている。特に保護者は、約55%と低く、家庭学習の習慣化が課題と感じていることが伺える。 ◆個々の課題や特性に合った家庭学習ができるよう、家庭学習の在り方を見直し、自主学習ノートや予習の方法を具体的に指導し、家庭と学校での学びがつながるよう工夫する。	児童⑧	51.2	41.5	7.3	0.0	92.7	A
							統一					38人	
							家庭学習達成率					74.1%	
							保護者③	10.3	44.8	41.4	3.5	55.1	D
							教職員⑤	14.3	71.4	14.3	0.0	85.7	B
	3 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善	教師は、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業を目指して指導方法を工夫し、児童が「分かる・考える・伸びる」授業づくりをしているか。	児童・教職員の90%以上が肯定	中間期	A	◇児童の肯定率は90%を上回っているが、教職員は80%台である。児童が目を輝かせ、主体的に学び続けるためには、課題設定や発問の工夫、対話的な学びの充実が重要である。 ◆問題解決や協働的な学習の充実を図り、教師が良きファシリテーターとして問い掛けや問い返し等を工夫し、児童の対話力向上を図る。また、行事や集会等、様々な教育活動を通して、学び合う楽しさを実感させる。	児童②	55.0	42.5	5.0	0.0	95.0	A
							児童③	52.5	75.0	12.5	0.0	87.5	B
							教職員②	12.5	80.0	20.0	0.0	80.0	B
							教職員④	0.0	17.5	0.0	0.0	100.0	A
				年度末	A	◇児童・保護者・教職員ともに肯定率が90%を上回った。教師が問い掛けや問い返し等を工夫し、対話的に学び合う場を確保したことで、児童が「分かった」「できた」という実感を持つことができた結果であると考えられる。 ◆発達段階に合った自主学習や予習の習慣化、学習リーダーの育成等、児童の主体的な学びを目指した「分かる・考える・伸びる」授業をさらに充実させていく。	児童②	41.5	53.7	2.4	2.4	95.2	A
							児童③	53.7	41.5	4.8	0.0	95.2	A
							教職員②	42.9	57.1	0.0	0.0	100.0	A
							教職員④	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	A

重点目標	評価項目	評価指標	目標値	期間	評定	考察（◇）　改善方策（◆）		4	3	2	1	肯定率	個別評価
	4 情報活用能力の育成	児童や教師がクロームブックを積極的・効果的に活用し、よさや楽しさを実感しているか。	児童・保護者・教職員の90%以上が肯定	中間期	A	◇90%以上の児童が、クロームブック等を使った学習を「楽しい・分かりやすい」と回答し、教職員の肯定率も90%を上回っているが、保護者は下回っている。家庭での活用が十分ではない実態が伺える。 ◆学校だけでなく家庭でもＥＩＬＳやドリルパーク等を活用したり、調べ学習において情報活用スキルを習得する指導を工夫したりする。また、書くことも重要であり、デジタルとアナログの活用場面を効果的に選択しながら、情報活用力を伸ばす。	児童④	82.5	17.5	0.0	0.0	100.0	A
							統一					41人	
							児童⑤	60.0	35.0	5.0	0.0	95.0	A
							児童⑥	52.5	45.0	2.5	0.0	97.5	A
							保護者②	42.9	45.7	11.4	0.0	88.6	B
							教職員③	28.6	71.4	0.0	0.0	100.0	A
				年度末	A	◇児童・保護者・教職員ともに肯定率が90%を上回った。授業や家庭学習で、ＥＩＬＳやドリルパーク等を積極的に活用できたことが高評価の維持につながっている。また、児童が、フォームを使ったアンケートで意見を集約したり、パワーポイントで考えをまとめたりするなど、様々な場面で情報活用スキルを発揮していることが高評価につながったと考えられる。 ◆引き続き、書くことによる思考力・表現力の育成も大切にしながら、デジタルとアナログの活用場面をバランスよく設定し、情報活用能力を育成する。併せて、情報モラル教育についても、発達段階に応じた指導を継続していく。	児童④	73.2	24.4	2.4	0.0	97.6	A
							統一					40人	
							児童⑤	56.1	39.0	4.9	0.0	95.1	A
							児童⑥	43.9	53.7	2.4	0.0	97.6	A
							保護者②	27.6	65.5	6.9	0.0	93.1	A
							教職員③	14.3	85.7	0.0	0.0	100.0	A
	5 読書活動の推進	進んで読書に親しむ児童が育っているか。	児童・保護者・教職員の90%以上が肯定、児童の30分読書達成率が80%以上（児童のチェックカード）	中間期	A	◇児童の自己評価は90%を上回り、昨年度より大きく向上している。図書だよりの発行、図書委員会の活動、読み聞かせ、校区別人権・同和教育懇談会での人権お話会、みきゃん通帳記入等により、意欲的に読書をする児童が増えた。しかし、保護者は90%を下回り、家庭での読書は十分ではない児童もいる。 ◆これまでの取組を継続し、親子読書や家庭での本の感想交流等を推奨する。	児童⑨	80.0	10.0	7.5	2.5	90.0	A
							30分読書達成率					53.7%	
							保護者④	40.0	42.9	17.1	0.0	82.9	B
							教職員⑥	28.6	71.4	0.0	0.0	100.0	A
				年度末	B	◇児童・保護者の評価は90%を下回っているが、図書室の利用や30分読書を達成する児童は徐々に増えてきている。図書だよりの発行、図書委員会の読み聞かせや集会、みきゃん通帳、親子読書の取組等により、読書に親しむ場づくりに努めているが、十分な成果は得られていない。 ◆30分読書の達成率やレインボー賞(70冊以上本を読んだ児童の表彰)等、成果を可視化する取組を継続し、読書の楽しさや良さを学校と家庭で共有していく。	児童⑨	70.7	17.1	7.3	4.9	87.8	B
							30分読書達成率					62.8%	
							保護者④	34.5	48.3	17.2	0.0	82.8	B
							教職員⑥	57.1	42.9	0.0	0.0	100.0	A
	学校運営協議会の所見	○柏小は、家庭学習・読書・体力づくり・防災等、全てのことに熱心に取り組み、充実した教育活動ができている。 ○親は、我が子には厳しくなる。家庭学習や読書の保護者評価が低くなるのは、自然ではないか。日中ずっと子どもを見ているわけではないので、家庭学習や読書もしているが、ゲームの方が目に付いてしまうのではないか。 ○柏子ども塾で子どもに関わっているが、甘えもあるのか、問題を読まずに答えを聞こうとする子どもがいる。子どもたちのやる気を引き出すことに努めている。 ○子どもの活字離れがとても心配。保育所の園児が絵本に興味を持ちにくい。幼児期から絵本を好きになるように工夫したい。読書に親しむ時間を積み重ね、家庭にも広げていきたい。 ○公民館の図書室が狭くなったが、柏子ども塾の奥に本のコーナーがある。活用してほしい。				学校の対応	○今後も、授業や家庭学習、業間（かんぺきタイム）等で基礎的・基本的な内容の定着、自主学習や予習の習慣化を図り、児童が自ら学ぼうとする意欲を育てていく。 ○対話的な学びが充実するよう、学び合いの時間を十分確保し、自分の考えを書き、伝え合う授業を継続している。引き続き、書くことによる思考力・表現力の育成を図るとともに、デジタルとアナログの活用場面を効果的に選択しながら、情報活用能力を育成する。 ○読書活動の推進については、現在行っている図書委員会の読み聞かせや集会、図書だより、親子読書等の取組を継続し、読書の楽しさやよさを実感させ、読書に親しむ児童を増やしていく。						
	6 主体性、礼儀と感謝の心の育成	児童が自ら「気付き・考え・実行する」とともに、決まりを守り、礼儀や感謝の心が育っているか。	児童･保護者･地域･教職員の90%以上が肯定	中間期	A	◇挨拶や感謝の心、決まりを守ることについて、児童・地域・教職員の肯定率は90%を上回っているが、挨拶に関する保護者の肯定率は90%を下回っている。落ち着いて礼儀正しく行動し、気付き・考え・実行できる児童の姿が多く見られた。 ◆挨拶や感謝の言葉、目上の人や友達との関わり方等、児童の気になる言動があれば声を掛け、道徳科や体験活動等、教育活動全体を通じて指導する。	児童⑫	70.0	20.0	10.0	0.0	90.0	A
							児童⑬	75.0	22.5	0.0	2.5	97.5	A
							児童⑰	82.5	15.0	2.5	0.0	97.5	A
							保護者⑦	40.0	45.7	11.4	2.9	85.7	B
							地域①	37.5	62.5	0.0	0.0	100.0	A
							教職員⑧	33.3	66.7	0.0	0.0	100.0	A
							教職員⑦	37.5	62.5	0.0	0.0	100.0	A
				年度末	A	◇学習場面だけでなく生活場面においても、「気付き・考え・実行する」ことへの意識が高まっており、児童の主体性が育ってきている。 ◇感謝を伝えること、決まりを守ることについては、児童の肯定率が90%を上回ったが、挨拶については、児童・保護者ともに肯定率は目標値を下回っており、家庭や地域での挨拶が十分ではないことが伺える。 ◆引き続き、挨拶の意義や役割について継続して指導し、挨拶ができている児童を積極的に称揚し、家庭や地域で進んで挨拶ができるように指導していく。	児童⑫	61.0	26.8	12.2	0.0	87.8	B
							児童⑬	58.5	36.6	4.9	0.0	95.1	A
							児童⑰	65.9	31.7	2.4	0.0	97.6	A
							保護者⑦	27.6	48.3	20.7	3.4	75.9	C
							地域①	40.0	60.0	0.0	0.0	100.0	A
							教職員⑧	44.4	55.6	0.0	0.0	100.0	A
							教職員⑦	28.6	71.4	0.0	0.0	100.0	A

重点目標	評価項目	評価指標	目標値	期間	評定	考察（◇）　改善方策（◆）		4	3	2	1	肯定率	個別評価
心づくり（生徒指導の徹底と健全育成）	7 いじめや差別のない認め合い支え合う集団づくり	「柏小学校いじめ防止基本方針」を基に、児童が主体的に「柏っ子のきまり５か条」を守り、いじめや差別を許さない心、認め合い支え合う温かい集団が育っているか。	児童・保護者・教職員の90%以上が肯定	中間期	B	◇思いやりや仲間づくりに関しては、児童・教職員共に肯定率が90%を上回っており、相手の気持ちを考えた温かい言動ができる児童が育っている。今後も「柏っ子のきまり５か条」の活用、アンケートや教育相談の実施により、児童の悩みに寄り添い、児童理解に努める。 ◆友達を傷付ける言動やトラブルに対しては、善悪の判断と相手の気持ちを考えた行動ができるよう機会を逃さず指導し、保護者とも情報を共有し、相互理解を深める。	児童⑭	70.0	27.5	2.5	0.0	97.5	A
							保護者⑪	31.4	57.1	2.9	8.6	88.5	B
							地域③	25.0	50.0	0.0	0.0	75.0	C
							教職員⑪	50.0	50.0	0.0	0.0	100.0	A
							教職員⑫	50.0	37.5	12.5	0.0	87.5	B
				年度末	A	◇児童・教職員の肯定率は90%を上回っているが、友達の気持ちを考えたり自分にできることをしたりして友達と仲良くすることが、できていない、あまりできていないと回答した児童が５%いる。また、保護者の肯定率も目標値を下回っており、学校はこのことを重く受け止める必要がある。 ◆引き続き、教育相談を充実し、児童理解に努めるとともに、学校が児童の安心基地としての役割を果たすよう、自己評価が低かった児童の立場に立ち、相手の気持ちを考えた言動、認め合い支え合う仲間づくりに一層努めていく。	児童⑭	68.3	26.8	2.5	2.4	95.1	A
							保護者⑪	31.0	58.6	10.3	0.0	89.6	B
							地域③	30.0	70.0	0.0	0.0	100.0	A
							教職員⑪	55.6	44.4	0.0	0.0	100.0	A
							教職員⑫	75.0	25.0	0.0	0.0	100.0	A
	8 自己肯定感・自己有用感の育成	児童は、友達や教師と積極的に関わりながら、楽しく学校生活を送ることができているか。	児童・保護者・教職員の90%以上が肯定	中間期	A	◇「学校は楽しい」に関する児童・保護者・教職員の肯定率は、90%を上回り、目標を達成している。友達関係が良好であり、学習や運動面をはじめ学校生活全般に充実感を感じていることが伺える。 ◆今後も、児童が主体的に計画する学級活動や集会活動を充実させ、児童相互、教師と児童が触れ合う機会を多く設定し、信頼関係を深めていく。	児童⑩	70.0	27.5	2.5	0.0	97.5	A
							統一					40人	
							保護者⑤	54.3	42.9	0.0	2.8	97.2	A
							統一					40人	
							教職員⑬	37.5	62.5	0.0	0.0	100.0	A
				年度末	A	◇児童・保護者・教職員ともに肯定率が90%を上回っている。友達や教職員との良好な人間関係や、学習や生活面での充実感から「学校が楽しい」と感じている児童が多いことが伺える。 ◆今後も日々の授業や学校行事、集会活動等を充実させ、自分たちの手で学校をよりよく楽しくしていこうとする意欲と主体性を育てる。	児童⑩	56.1	39.0	4.9	0.0	95.1	A
							統一					39人	
							保護者⑤	62.1	31.0	6.9	0.0	93.1	A
							統一					38人	
							教職員⑬	75.0	25.0	0.0	0.0	100.0	A
		児童は、自分によいところがあると自信を持っているか。	児童の90%以上が肯定	中間期	A	◇児童・教職員共に、自己肯定感・自己有用感に関する肯定率が90%を上回った。これは、児童の頑張りや良さを認め励ます支援に努め、児童も目標を持って努力し、達成感を味わった成果と言える。 ◆今後も、教師が個の良さを積極的にほめたり、児童間で伝え合ったりすることで、認め合い支え合う学級・学校の風土づくりをする。	児童⑱	32.5	57.5	7.5	2.5	90.0	A
							教職員⑭	44.4	55.6	0.0	0.0	100.0	A
				年度末	B	◇教職員は、児童の頑張りや良さを認め励ます支援に努め、様々な分野で多くの児童が活躍したが、児童の肯定率は90%を下回り、中間期より少し下がっている。アンケート時の気分が影響している可能性はあるが、自己肯定感の低い児童への声掛け等の支援が必要である。 ◆児童の良さを児童・保護者に積極的に伝えるとともに、自他ともに互いの良さを認め合える場づくりに努める。	児童⑱	31.7	53.7	12.2	2.4	85.4	B
							教職員⑭	80.0	20.0	0.0	0.0	100.0	A
		児童は、あきらめずに物事に挑戦しているか。	目標値　児童・教職員の90%以上が肯定	中間期	A	◇児童・保護者・教職員の肯定率は90%を上回り、目標を達成した。教職員は温かく粘り強く児童と関わり、個々の頑張りをほめたり、通信等で積極的に紹介したりするよう努めた結果と言える。 ◆自分の目標を持ち、あきらめずに挑戦する児童を育成するよう、児童のよさを教職員間で共有し、支援する。	児童⑯	77.5	22.5	0.0	0.0	100.0	A
							保護者⑧	40.0	57.1	2.9	0.0	97.1	A
							教職員⑩	50.0	50.0	0.0	0.0	100.0	A
				年度末	A	◇児童・保護者・教職員ともに肯定率が90%を上回った。児童が思い描く目標に向けて努力し、教職員もそれを温かく粘り強く指導することができた結果だと考えられる。 ◆今後も、児童が目標を持って挑戦できるよう支援するとともに、児童の良さや頑張りを教職員間で共有し、温かく指導していく。	児童⑯	70.7	26.8	2.5	0.0	97.5	A
							保護者⑧	41.4	51.7	6.9	0.0	93.1	A
							教職員⑩	62.5	37.5	0.0	0.0	100.0	A

学校運営協議会の所見	○柏小学校の子どもは、挨拶がよくできている。このまま続けてほしい。 ○ある地区の子どもは、挨拶が元気よくできているが、心なしか元気がない子どももいる。 ○先生の目の届かない所で大きなけんかをしていたと子どもから聞き、心配した。 ○小さな学校なので、苦手な友達とも関わらなければならない。そのような子どもの把握も含め、先生方には丁寧に指導していただいている。 ○昔はけんかや言い合いをしてコミュニケーションを取っていた。今は言いたいことを相手に言わず、見えない所で言う（ネットいじめ、物隠し等）。いじめられた子もプライドがあり言わないので、子どものサインを見落としがちになり、気付くのが遅れる。いつもと違う様子を見付けるため、地域での見守りの目も大切である。 ○学校が子どものよさを、積極的に情報発信していくことが大事だと思う。学校からの発信は、子どもたちの様子を知る唯一の指標になる。	学校の対応	○挨拶については、登校時に特定の場所や教職員に対してはできるが、友達や地域への挨拶はあまりできていない。友達や家庭、地域でも自分から進んでできるよう、今後も指導していく。 ○学校外の生活について、目の届かないことがあるので、気付いたことは学校へ知らせていただき、家庭や地域と連携しながら指導を行っていく。 ○今後も相手の気持ちを考えた言動ができるよう、道徳科をはじめ全教育活動を通じて、指導を継続する。 ○教育相談を充実させ、児童理解に努めるとともに、児童間で自他のよさを認め合い、自己肯定感を高めるよう支援する。 ○今後も、学級だよりや学校だより、ホームページなどで、児童のよさや頑張りを積極的に発信していく。

重点目標	評価項目	評価指標	目標値	期間	評定	考察（◇）　改善方策（◆）		4	3	2	1	肯定率	個別評価
体づくり	9 基本的生活習慣の確立	規則正しい生活をする児童が育っているか。	児童・保護者・教職員の90%以上が肯定	中間期	A	◇児童・教職員の肯定率は90%を上回っているが、保護者の肯定率は90%を下回っている。「早寝・早起き・朝ごはん」等の習慣化に向けて、家庭と連携した指導が必要である。 ◆規則正しい生活をすることの大切さについて、データや資料を活用して、体育科や特別活動、保健委員会の活動等で積極的に伝える。また、家庭生活・学習調べを活用し、家庭との連携を図りながら個に応じた指導・支援を行う。	児童⑪	52.5	37.5	7.5	2.5	90.0	A
							統一					37人	
							保護者⑥	45.7	37.1	14.3	2.9	82.8	B
							教職員⑨	12.5	87.5	0.0	0.0	100.0	A
				年度末	B	◇教職員の肯定率は90%を上回っているが、児童・保護者の肯定率は90%を下回った。「早寝・早起き・朝ごはん」等の習慣化に向けて、家庭と連携した更なる指導が必要である。 ◆体育科や集会活動等で、保健に関する指導を充実させるとともに、保健だより等を活用して保護者に啓発する。	児童⑪	70.7	17.1	7.3	4.9	87.8	B
							統一					36人	
							保護者⑥	48.3	34.5	13.8	3.4	82.8	B
							教職員⑨	37.5	62.5	0.0	0.0	100.0	A
	10 体力づくりの推進	学校は、児童の体力向上のための取組を積極的に行っているか。	児童・保護者・教職員の90%以上が肯定	中間期	A	◇体育科や業間「いきいきタイム」、放課後の水泳練習等で体力向上を図った結果、児童の運動能力が向上し、児童・保護者・教職員共に肯定率が90%を上回った。 ◆今後も陸上練習やＩＴスタジアム等で、走る運動、ボール運動、縄跳び等様々な運動に取り組ませ、数値を用いた目標・到達度を示して意欲を高める。	児童㉑	70.0	27.5	2.5	0.0	97.5	A
							保護者⑩	45.7	54.3	0.0	0.0	100.0	A
							教職員⑯	33.3	66.7	0.0	0.0	100.0	A
				年度末	A	◇児童の肯定率は90%を下回ったが、保護者・教職員は目標値を上回っている。体育科や放課後練習等を通して、児童の運動能力は向上したが、「進んで」という点で自己評価が低くなった児童がいると推測される。 ◆放課後練習やいきいきタイム等で、様々な運動に親しませる。自己評価が低い児童には「進んで」運動するとはどういうことか具体例を示し、できていることを称揚する。	児童㉑	56.1	29.3	9.8	4.8	85.4	B
							保護者⑩	44.8	55.2	0.0	0.0	100.0	A
							教職員⑯	66.7	33.3	0.0	0.0	100.0	A
	学校運営協議会の所見	○「早寝・早起き・朝ごはん」の中でも、特に「早寝」が課題だと聞いた。家庭の問題だと思うが、寝る時間が遅い児童に、学校はどのような指導をすればよいのか。 ○昔は遊びの中で自然に体力・運動能力が身に付いた。今は、運動する子としない子の差が大きくなっている。休み時間等、外で元気に遊んでいるのはよいことだと思う。		学校の対応		○体育科や集会活動等で、保健に関する指導を充実させる。３学期、「心とメディア」に関する医師の講話を実施し、基本的な生活習慣の確立についての話をしていただく。今後も、生活習慣について、保健だよりを活用して児童や家庭に発信していく。 ○放課後練習やいきいきタイム等で様々な運動に取り組む。ＩＴスタジアムのボール運動や縄跳び等、数値目標を示して児童の意欲を高め、達成感を味わわせる。							
	11 安全・防災教育の充実	学校は、安全（防災）教育を教育課程に位置付け、家庭や地域・関係機関等と連携して「命を守る教育」を推進しているか。	児童・保護者・教職員の90%以上が肯定	中間期	A	◇避難訓練や防災学習を通して、「自分の命は自分で守る」ことや、「自助・互助・共助」への意識が高まり、児童・保護者・教職員共に肯定率が概ね90%を上回っている。家庭における防災への備えに関しては、保護者の肯定率が90%を下回っており、児童の学びが家庭に広がっていく工夫が必要である。 ◆今後も、防災学習や防災マップ作りを通して、学びを深めるとともに、保護者・地域の方と成果や課題を共有する。また、外部の方の協力による避難訓練等を充実させる。	児童㉒	80.0	15.0	5.0	0.0	95.0	A
							保護者⑬	34.3	54.3	11.4	0.0	88.6	B
							保護者⑭	45.7	54.3	0.0	0.0	100.0	A
							地域⑤	87.5	12.5	0.0	0.0	100.0	A
							教職員⑳	50.0	50.0	0.0	0.0	100.0	A
							教職員㉑	44.4	55.6	0.0	0.0	100.0	A
				年度末	A	◇児童・保護者・地域・教職員ともに肯定率が90%を上回り、好評価であった。防災学習や避難訓練を通して学んだことや気付き・考えを積極的に発信する活動により「自助・互助・共助」への意識が高まってきた。家庭でも防災について話し合う機会が増え、児童の学びが家庭や地域に広がりつつある。 ◆今後も、学んだ成果を地域に返す活動を繰り返しながら、地域ぐるみの防災教育を推進していく。また、地域や関係機関の協力を得ながら、南海トラフ巨大地震をそう適した実動的な訓練を実践していく。	児童㉒	85.4	9.8	4.8	0.0	95.2	A
							保護者⑬	31.0	65.5	3.5	0.0	96.5	A
							保護者⑭	82.8	17.2	0.0	0.0	100.0	A
							地域⑤	90.0	10.0	0.0	0.0	100.0	A
							教職員⑳	66.7	33.3	0.0	0.0	100.0	A
							教職員㉑	55.6	44.4	0.0	0.0	100.0	A

重点目標	評価項目	評価指標	目標値	期間	評定	考察（◇）　改善方策（◆）		4	3	2	1	肯定率	個別評価
特色ある学校づくり	12 ふるさと学習の推進	学校は、地域人材や自然・文化を活用するなど、地域の教育力を生かした教育活動を推進しているか。	児童･保護者･地域･教職員の90%以上が肯定	中間期	A	◇児童・保護者・地域・教職員の肯定率が90%を上回り、目標を達成した。生活科のまち探検、総合的な学習の時間の防災学習等で、地域の「人・もの・こと」と主体的に関わり、充実した学びができた。 ◆地域コーディネーターが、地域と学校をつなぐ役目となって、豊かな体験活動を行うことができている。秋に予定している地域交流会でも創意工夫し、地域とのつながりを深めていく。	児童⑲	72.5	25.0	2.5	0.0	97.5	A
							児童⑳	57.5	37.5	5.0	0.0	95.0	A
							保護者⑨	57.1	42.9	0.0	0.0	100.0	A
							地域②	37.5	62.5	0.0	0.0	100.0	A
							教職員㉝	83.3	16.7	0.0	0.0	100.0	A
							教職員⑮	33.3	66.7	0.0	0.0	100.0	A
				年度末	A	◇児童・保護者・地域・教職員の肯定率が90%を上回り、目標を達成した。地域コーディネーターが、地域と学校をつなぎ、地域の「人・もの・こと」と豊かに関わり、ふるさと柏を大切に思う気持ちが育ってきている。 ◆今後も、地域の「人・もの・こと」と連携したふるさと学習を展開していく。	児童⑲	61.0	39.0	0.0	0.0	100.0	A
							児童⑳	63.4	29.3	7.3	0.0	92.7	A
							保護者⑨	55.2	37.9	6.9	0.0	93.1	A
							地域②	70.0	30.0	0.0	0.0	100.0	A
							教職員㉝	25.0	75.0	0.0	0.0	100.0	A
							教職員⑮	42.9	57.1	0.0	0.0	100.0	A
	13 開かれた学校づくり	学校は、各種通信やホームページ等で、学校の取組を発信したり、参観日等で積極的に公開したりしているか。	保護者・地域・教職員の90%以上が肯定、毎月の学校だより、学級通信の発行、ホームページの更新の実施率が90%以上	中間期	A	◇ホームページや通信等を通して、教育活動や児童の様子を積極的に伝えるよう努めたことにより、保護者・地域・教職員の肯定率は、90%を上回った。 ◆今後も、保護者・地域のニーズに合った情報発信や、保護者・地域の方が来校しやすく相談しやすい学校づくりに努める。	保護者⑫	54.3	45.7	0.0	0.0	100.0	A
							地域④	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	A
							教職員⑰	66.7	33.3	0.0	0.0	100.0	A
							教職員㉟	83.3	16.7	0.0	0.0	100.0	A
							通信･HP実施率					100%	
							教職員㉞	50.0	50.0	0.0	0.0	100.0	A
							教職員㊱	37.5	62.5	0.0	0.0	100.0	A
				年度末	A	◇保護者・地域・教職員の肯定率が90%を上回った。ホームページや通信等で、教育活動や児童の様子を積極的に伝えることができたことが、高評価につながったと考えられる。 ◆今後も、保護者・地域への積極的な情報発信に努めるとともに、保護者・地域の方が来校しやすく相談しやすい学校づくりに努める。	保護者⑫	65.5	34.5	0.0	0.0	100.0	A
							地域④	66.7	33.3	0.0	0.0	100.0	A
							教職員⑰	66.7	33.3	0.0	0.0	100.0	A
							教職員㉟	62.5	37.5	0.0	0.0	100.0	A
							通信･HP実施率					100%	
							教職員㉞	25.0	75.0	0.0	0.0	100.0	A
							教職員㊱	75.0	25.0	0.0	0.0	100.0	A

学校運営協議会の所見	○「地域とともにある」学校づくりに力を注いでいて、地域とのつながりを大切にしていることが分かる。特に防災学習に力を入れていて、すばらしいと思う。今後も、子どもたちにいろいろな知識や経験を積んでもらいたい。 ○防災学習を学年単位でなく、地区ごとの縦割りのチームで行っているのがよい。 ○田植え体験、トンネル建設現場の見学等、体験学習をぜひ続けてほしい。 ○放課後、自転車で遊びに行っている低学年の子がいると聞いた。学校外の時間に、家庭と地域が連携してどのように安全確保をしていくかが課題である。 ○独居老人訪問、マッピング等、今後も社会福祉協議会としてできることを考え、学校と連携していきたい。 ○地域ぐるみの運動会がとてもよかった。地域の方もみんな「よかった。」と満足していた。	学校の対応	○今後も防災学習を継続し、地域と共に学ぶ体験を通して、自助・共助の心、「気付き、考え、実行する」態度を育てていく。 ○地域の方に温かく支えられ、子どもたちが豊かな体験ができている。今年度は、柏遊会にお世話になり、ひまわりの種まきや田植え等もさせていただいた。また、社会福祉協議会や老人クラブの方の御協力を得て、独居老人宅訪問もでき、防災学習で学んだことを生かすことができた。さらに、防災学習をはじめ、各学年の課題に応じたふるさと学習や自己の生き方を見つめる学習等にも取り組んでいく。 ○単独開催となった運動会が、多くの保護者・地域の方の協力ですばらしい運動会となった。特に高学年の児童は、自分たちの手で創り上げる喜びや達成感を味わうことができた。来年度以降も、子どもたちの成長の場となるよう努める。

重点目標	評価項目	評価指標	目標値	期間	評定	考察（◇）　改善方策（◆）		4	3	2	1	肯定率	個別評価
環境づくり	14 きれいな学校づくり	学校は、校舎内外の美化や環境整備に努めているか。	児童・地域・教職員の90%以上が肯定	中間期	A	◇教室環境や校舎内外の環境整備に努め、安全な環境を維持することができた。児童も清掃活動に熱心に取り組み、児童・地域・教職員の肯定率は90%を上回った。 ◆今後も清掃の仕方を具体的に指導したり、頑張っている児童をほめたりして、意欲の高揚を図る。	児童⑮	70.0	27.5	2.5	0.0	97.5	A
							地域⑥	37.5	62.5	0.0	0.0	100.0	A
							教職員⑲	25.0	75.0	20.0	0.0	100.0	A
				年度末	A	◇教室環境や校舎内外の環境整備に努め、教職員が協力して安全な環境を維持することができた。共同事務室や教育委員会と連携し、修繕が必要な箇所等について、適切に対応することができた。 ◆今後も、丁寧な清掃指導や校内の美化、安全につながる環境整備に努めていく。	児童⑮	65.9	29.3	2.4	2.4	95.2	A
							地域⑥	60.0	40.0	0.0	0.0	100.0	A
							教職員⑲	80.0	20.0	0.0	0.0	100.0	A
	15 安全管理の徹底	学校は、教職員の危機意識を高め、児童の安全確保に努めているか。	教職員の90%以上が肯定	中間期	A	◇月に一度、校舎内外の安全点検を行い、不具合のある場所は、その都度修理するよう努めており、肯定率は100%を達成している。 ◆今後も、全教職員が危機意識を高く持ち、安全な環境づくりに努める。	教職員⑱	57.1	42.9	0.0	0.0	100.0	A
							教職員㉖	90.0	10.0	0.0	0.0	100.0	A
				年度末	A	◇月１回の校舎内外の安全点検を複数体制で確実に実施することができた。地震・大雨等の災害時の点検等、必要に応じて全教職員で安全確認を行い、対応できた。 ◆全教職員が高い危機意識を持ち、協働して安全な環境づくりに努める。	教職員⑱	62.5	37.5	0.0	0.0	100.0	A
							教職員㉖	81.8	18.2	0.0	0.0	100.0	A
	16 教職員の資質・能力の向上	教職員は自らの資質・能力の向上に努めているか。	教職員の90%以上が肯定	中間期	A	◇校内研修会を中心に、様々な教育課題や児童の課題について話し合って実践したり、授業改善のため外部講師を招いた研究授業を行ったりすることができた。教職員の肯定率も90%を上回っている。 ◆今後も校内研修や自己研修に努め、日々の授業改善に生かす。	教職員㉙	42.9	57.1	0.0	0.0	100.0	A
							統一					41人	
							教職員㉗	57.1	42.9	0.0	0.0	100.0	A
							教職員㉘	60.0	40.0	0.0	0.0	100.0	A
				年度末	A	◇愛媛県複式学級担任者研修会を通して、児童が主体的に学ぶ授業について研修を深めることができた。また、県内外の研究会に積極的に参加し、自らの資質・能力の向上に努めた。 ◆今後も学び続ける教職員を目指し、授業改善や修養に努める。	教職員㉙	50.0	50.0	0.0	0.0	100.0	A
							統一					41人	
							教職員㉗	62.5	37.5	0.0	0.0	100.0	A
							教職員㉘	87.5	12.5	0.0	0.0	100.0	A
	17 学校組織の活性化	学校の運営体制を組織的・計画的に点検・評価・改善し、業務改善に努めているか。	教職員の90%以上が肯定、 毎月の超過勤務時間が80時間を超えない教職員の割合が100%	中間期	A	◇教職員の肯定率は概ね90%を上回り、目標を達成している。校務分掌の円滑な遂行、組織での協働体制づくりに努めた結果である。時間外勤務に関しては肯定率が90%を下回っており、削減に向けた対策が必要である。 ◆仕事のやりがいを重視しつつ業務改善を実践し、時間外勤務を減らすよう努める。	教職員㉓	44.4	44.4	11.1	0.0	88.8	B
							超過勤務80時間未満					72.7%	
							教職員㉜	40.0	60.0	0.0	0.0	100.0	A
							教職員㉔	60.0	40.0	0.0	0.0	100.0	A
							教職員㉕	77.8	22.2	0.0	0.0	100.0	A
							教職員㉚	20.0	80.0	0.0	0.0	100.0	A
							教職員㉛	55.6	44.4	0.0	0.0	100.0	A
				年度末	A	◇教職員の肯定率は90%を上回り、目標を達成できた。校務分掌の円滑な遂行、組織での協働体制づくり、時間外勤務の削減に努めたが、超過勤務80時間未満の目標を達成することはできなかった。 ◆今後も、仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務の削減につながる業務改善に積極的に努めていく。	教職員㉓	30.0	60.0	10.0	0.0	90.0	A
							超過勤務80時間未満					81.3%	
							教職員㉜	57.1	42.9	0.0	0.0	100.0	A
							教職員㉔	72.7	27.3	0.0	0.0	100.0	A
							教職員㉕	72.7	27.3	0.0	0.0	100.0	A
							教職員㉚	28.6	71.4	0.0	0.0	100.0	A
							教職員㉛	72.7	27.3	0.0	0.0	100.0	A
	学校運営協議会の所見	○学校の環境がいつも安全にきれいに保たれている。４月の地震で、柏小学校も被害があったが、迅速に対応していただいた。				学校の対応	○今後も積極的に校内外の美化活動に取り組み、安全できれいな環境づくりに努めていく。 ○働き方と働きがいのバランスが取れるよう、業務改善や協働体制に努める。また、教師自身も学ぶ姿勢を忘れず、校内研修や自己研修に努める。						